

令和5年度第2回仙台市自殺対策連絡協議会 議事録

1. 開催日時：令和5年9月6日（水）19:00～20:45
2. 開催場所：仙台市役所二日町第五仮庁舎（オンワード樫山ビル）10階ホール

3. 出席者

[出席委員（五十音順・敬称略）]

今井 誠二 （尚綱学院大学）
小野 彩香 （特定非営利活動法人 Switch）
鹿野 英生 （仙台市医師会）
小関 美江 （公益財団法人仙台市産業振興事業団）
小林 幹子 （仙台市立原町小学校）
下野 精太 （いのち支える自殺対策推進センター）
菅原 由美 （東北大学大学院医学系研究科）
鈴木 琴似 （みやぎの萩ネットワーク）
高橋 喜治 （宮城労働局）
田中 幸子 （藍の会、全国自死遺族連絡会）
永井 恵 （仙台いのちの電話）
野口 和人 （東北大学大学院教育学研究科）
原 敬造 （宮城県精神神経科診療所協会）
藤岡 奈美子 （日本産業カウンセラー協会東北支部）
藤澤 能子 （宮城県行政書士会）
渡部 裕一 （宮城県精神保健福祉士協会）

（欠席委員＝井口 直子（仙台弁護士会）、佐藤 博俊（仙台市立病院）、森田 みさ（宮城県司法書士会）、山崎 洋史（仙台白百合女子大学））

[事務局]

仙台市健康福祉局 障害福祉部長 清水
障害者支援課長 穴戸
障害者支援課精神保健福祉担当課長 佐藤
精神保健福祉総合センター所長 林
健康政策課長 佐野

4. 次第

- (1) 開会
- (2) 議事
 - ① 第二期自殺対策計画の全体構成について
- (3) その他
- (4) 閉会

5. 会議内容

(1) 開会	
障害福祉部長 事務局（司会）	<p><委員のご紹介></p> <p><本協議会の成立について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・20名中15名の委員の出席により、本協議会は成立。 <p>※田中委員は所用のため開始40分後に入室。</p> <p><事務局職員の紹介></p> <p><配布資料の確認></p> <p>・以後の進行については、原会長にお願いします。</p>
(2) 議事	
① 第二期自殺対策計画の全体構成について	
原会長	<p><議事録署名人の選出></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事録署名人として、渡部裕一委員を指名。 <p><議事①第二期自殺対策計画の全体構成について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明をお願いします。
精神保健福祉 担当課長	<p><資料1、資料2、資料3の説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1により、各委員からの意見等を踏まえた第二期仙台市自殺対策計画への反映について説明。 ・資料2により、目指す状況を実現するために必要な状態に関連する取組みについて説明。 ・資料3により、第二期仙台市自殺対策計画の全体構成について（案）について説明。
原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・順番に指名するので、委員の皆さまからのご意見を伺いたいと思う。
今井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・路上生活者支援をする中で、経済的問題や多重債務、アルコールやギャンブル依存の問題を抱えている人が少なくないという印象があり、様々な行政の統計には数字がでてきていないように思う。今後、市民意識調査を実施する際は、多重債務やアディクションについての質問も加えてほしい。
精神保健福祉総 合センター所長	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉センターでアディクションの相談を受け付けており、ギャンブル依存等により生活上の支障が出ている方に対応する際の留意点等についてはお示しすることができる。
小野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・若年のいじめに対する対策を強化していくこと自体にはとても賛成であり、資料2の【社会全体レベル②】の2に記載されている28の取組みの中に、学校教職員のスキルアップのような研修がきちんと位置付けられているかどうか確認したい。 ・例えば、学校教職員がいじめの定義を適切に理解して対応するための研修等は今後ますます必要だと思うし、現場では、担当の先生が直接そこをキャッチできるような支援力のようなものが重要だと思う。 ・学校という組織である以上、いじめに対して適切な対応することが必要であるため、それを後押しするような取組みについても取組みの中に入れていけばいいな

と思う。

精神保健福祉
担当課長

- ・28の取組みの中には、管理職に対応しているものと現場の先生を対象とした研修が入っている。

鹿野委員

- ・新しい大綱によると女性の自殺対策が推進されてる。既に取組みの中に、女性向けの取組みも入っていると思うが、女性に対する対策も重要だと思う。

精神保健福祉
担当課長

- ・仙台市の自死の傾向では、特に若年女性の自殺者数が急増し、減少していないといった傾向があることから、女性に対する対策としては、4つの重点対象の1つである、「若年者」でカバーしていきたいと思う。

小関委員

- ・予防支援が重要だと考えており、大学生向けのゲートキーパー養成を実施している。受講した学生からの反響も大きく、ゲートキーパーに関する知識や行政の取組みなどの情報が若年者まで届いていないと感じることもあるため、今後も取組みを継続していきたい。

精神保健福祉
担当課長

- ・ゲートキーパーに関する知識等を常識として知っているという環境が重要だと思う。そのような環境をどのように作っていくか次期計画の中に盛り込んでいきたい。

小林委員

- ・学校のなかで、少しでも気になる児童がいれば声をかけている。
- ・児童に関わる教職員は異動により変わっていくため、人が変わったことにより、児童への関わり方や考え方が変わらないようにすることや、教職員自身も常に学んでいく姿勢を持つことが大切である。
- ・仙台市には様々な相談窓口があるが、相談を受けた際に適切な窓口につなぐことに難しさを感じる場面もあるため、窓口を利用する人にとって、わかりやすい案内をしていくことが大切だと思う。

下野委員

- ・仙台市の自殺の現状を踏まえ、項目や対策は全方位を網羅しており整理されていると思う。
- ・仙台市と自殺死亡率が低い他都市との間で、取組みに大きな違いはないと思うため、現在の施策の改善点を検証し、必要に応じて改善していくことが必要だと思うし、「目標を達成するために必要な10の状態」のそれぞれの到達目標の内容が非常に重要だと思う。
- ・市民意識調査においては、「目標を達成するために必要な10の状態」に紐づいた数ある取組みの中でも複数の重点施策を選び、具体的な目標設定を行うことが重要だと思う。

精神保健福祉
担当課長

- ・市民意識調査の詳細については、他都市のものも参考にしながら、今後詰めていく。11月の開催予定の第3回協議会では、素案という形で示せるように準備を進めていく。

菅原委員

- ・計画に掲載する取組みが3割増えたのは、各課で自殺対策について検討した成果だと思う。数も重要だが、質やバランス、内容も重要である。自殺者数が高止ま

	<ul style="list-style-type: none"> りしているのであれば、バランス等も見直す必要があると思う。 ・取組みの中で、ハイリスク者を拾い上げる共助の部分が少ないと思うため、今後更に手厚くなれば良いと思う。 ・市民意識調査の目的や対象者、実施時期について教えてほしい。
精神保健福祉 担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査については、計画4年目に実施し、計画5年目の次期計画策定時に反映させていきたい。 ・市民意識調査については、統計上妥当な数の調査を行い、質問項目については、目指す状況を実現するために必要な10の取組みにて測定できる内容としたい。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まず初めに、自死が起こらない社会的な状態とはどのようなことを指しているのか教えてほしい。
精神保健福祉 担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ・自死につながる要因は様々あり、その要因ができるだけ発生しない社会的環境を構築することや、もし悩みが発生しても早期に解決したり、適切な相談窓口にアクセスできる状態が、自死が起こらない社会なのではないかと思うため、そこを目指していきたい。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人が出会う一番最初の悩み事は子ども時代に起きる。不登校になった児童は発達支援につながると思うが、その後の経過として、学校に復帰できたのか、社会に出ていけたかの追跡調査の状況について教えてほしい
精神保健福祉 担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ・追跡調査については、教育局の所管になると思うが、現時点で新たに調査を行うということは聞いていない。 ・当課においては、15歳～64歳の世帯員がいる世帯を対象に、大規模なひきこもり調査を実施しており、結果がまとまり次第公表する。
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、労働災害関係の仕事をする中で、災害が発生する職場としない職場の違いは、約束事や規律を一定程度守れているかどうかで変わってくると認識している。 ・「自殺を減らす」ということを目的とした場合、みんなで意識を共有し、そのためにどう取り組むかといった細かなプロセスを作ることが、結果の差につながると思う。その取り組みをどうやって定着させていくか、日常の中に落とし込んでいくのかということを考えなければならない。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・震災時に鶴ヶ谷地区において、メンタルケアの介入をする前と後でアンケートを実施し冊子にしていた。5年間介入した結果、ストレスを抱えている人が20%減っているにも関わらず、自殺者数が減っていない。結果がでていないのであれば改善する必要がある。 ・仙台市の自殺対策は、素晴らしいものができているとは思いますが、効果が出るように実践していくことが必要である。
永井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺対策のために様々な取組みをされているし、整理もされていると感じる。 ・仙台いのちの電話では、「聴く」ということで、生きる気力を取り戻してほしい

という思いでやっており、これからも「聴く」ということを大事にしながら努めていきたいと思った。その中で、相談を受けた際に適切な窓口につなぐことに苦慮する時があるため、つなぎ方が課題であると認識している。

藤岡委員

- ・企業向けのゲートキーパー研修を実施することは重要ではあるが、大人社会でのいじめ=ハラスメントを予防する取組みについても計画に掲載されれば良いと思う。
- ・企業向けのゲートキーパー研修はインハウスであるため受講者にも限りがあると思うため、豊齢大学や各種イベント等において、一般市民向けに短時間でもゲートキーパー研修を実施することで、市民一人一人がゲートキーパーであるという意識を醸成することができると思う。また、ゲートキーパー研修にあたっては、市民の関心を惹くようなキャッチコピーがあっても良いと思う。

精神保健福祉
担当課長

- ・本市において、労働行政を所管していないため、勤労者に対する対策は弱点であると認識しており、関係機関との連携やネットワーク構築をしていくこと重要である。
- ・ゲートキーパー養成にあたっては、市民のリテラシーを高めることが必要であると考えており、今後、具体的な事業を検討していきたい。

精神保健福祉総
合センター所長

- ・ゲートキーパー研修においては、企業向けだけではなく、一般市民向けとしても、せんだい Tube にてゲートキーパー研修用動画を昨年度から掲載しており、昨年度から 214 回の再生回数がある。今後更に PR をしていきたいと思う。

藤岡委員

- ・YouTube 再生回数については、再生回数の目標や目標達成に向けた展開が必要だと思う。

精神保健福祉総
合センター所長

- ・研修用動画は活用されてこそ意味があるので、今後も PR をしていきたいと思う。

藤澤委員

- ・資料 2 において、各レベル内の取組み数が見直しの度に増加しているが、増やすだけではなく、それぞれの取組みの効果や利用者数、実施数のデータをとり、見直しをかけていくことも必要である。
- ・他の委員からも発言があったように、全体的に予防支援にも力を入れていくことが必要。例えば、いじめについては、いじめる側の家庭環境や対人スキルが原因で発生している場合もあるため、いじめやハラスメントを行う側に対するカウンセリングなどの取組みも重要ではないか。そのような取組みがあれば教えてほしい。
- ・児童に対して学校からタブレットの支給がなされており、ネットリテラシーが重要であると感じる。宮城県行政書士会の法教育事業においても、SNS 投稿の際の留意点やいじめは法律上の犯罪に該当し得ることについて触れ、啓発を行っている。

精神保健福祉
担当課長

- ・約 280 の取組みの中に、いじめやハラスメントをする側に対する取組みは入っていないと思う。

原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・警察より、ストーカーをする人に対するカウンセリングの依頼もあるが、件数は少ない。また、ストーカーをする側の人自身は自身の行動に自覚がないケースが多く、支援をする上での難しさを感じる。 ・いじめやハラスメントをする側に対する対策を考える中で、グループワークの作り方やソーシャルスキルトレーニングを重層的に取り組んでいくことが必要なのだと思う。
渡部委員	<ul style="list-style-type: none"> ・電話相談を受ける中で、若年者からの相談が多いと感じる。電話相談だと単発で終わってしまうことが多く、支援者へつなぐことが難しいと感じており、相談を受ける側で様々な知識や情報を持っていることや支援機関へのつなぎ方のノウハウを持っていることが重要だと思う。 ・資料2「主な取組み例」の中に、「伴走型相談支援」という記載があり、例えば、不登校がきっかけで、ひきこもりとなった方であれば、学生の時期だけでなく、卒業後も支援につながっていく必要があることから、伴走型支援の視点は重要だと思う。 ・他の委員からの発言もあったように、約280の取組みを様々な分野で幅広く展開する中で、実績（数字）の変化には注視していきたいと思う。
野口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の中に、「情報が届き、実際の活用が促される」という記載があるが、学校や職場等、社会の中でつながっている人には情報を届けやすいが、社会から外れてしまいった人へどう情報を届けていくかが課題だと思う。例えば、不登校の児童は、在学中は学校側が児童本人やその家庭に情報を届けたり支援をすることができるが、卒業後はそれができなくなってしまうため、どのように支援をしていくかが重要である。 ・子どもに対する様々な取組みを実施した結果、子どもが大人になった時に、いろんな人がいろんな形でサポートできる社会になっていくと思うが、年齢が上の方等には、様々な取組みが十分に実施できていないことも考えられるため、年代により考え方に差がでてしまうという観点について留意しておく必要がある。
原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月2000人の患者の患者を診察する中で、約7割の方が希死念慮を訴える。希死念慮を訴える方は、人とのつながりが消えたことにより、孤独や孤立を感じ、生きていく希望を失っていることが背景にあるため、つながっていく支援をどう組み込んでいくかという視点を持つことが必要だと思う。 ・つながっていくためには、ネットワークが必要である。特に、緊急時に対応できるネットワークを形成することで、自殺リスクを下げているのではないかと。
(3)	その他
	なし
(4)	閉会
事務局（司会）	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録確定までの手順の説明 ・追加の質問事項についての取扱いと共有についての説明 ・第3回連絡協議会は、11月8日に開催予定

以上

令和5年11月6日

署名委員

渡部 穂一